

## 令和6年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立小池小学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・自分の考えを図や表、言葉を用いて表現する経験の積み重ねを通して、既習事項を活用して課題に対する自分の考えを表現したり、友達の考えを理解しようとしたりする姿勢が身に付いた。
- ・日常生活でのつながりを意識して授業を行った結果、3学年ともに目標値を上回っており、全体的に学力の定着を図ることができた。

#### (2) 課題

- ・具体物や半具体物を使ったり、実際に測定したりする活動を通して、時間や重さ、分数や小数などの量感や抽象的な概念の理解を育む指導の改善を図る必要がある。
- ・中学年、高学年ともにデータに関する問題の正答率が低い傾向にあったので、情報を読み取ったり活用したりすることに課題がある。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

【◎…目標値を上回った(+5以上) ○…目標値と同程度(±0～+4.9) ▲…目標値を下回った】

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	◎		
第5学年	◎	◎ (第4学年時)	
第6学年	◎	◎ (第5学年時)	◎ (第4学年時)

#### (2) 分析（観点別）

##### ① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
正答率が目標値を上回っているが、数と計算の領域では、内容によって定着に差が見られた。繰り上がりが3回ある足し算や、同分母の分数の計算において正答率が低い傾向にある。	正答率が目標値を上回っているが、わり算は正答率が低い。特に、あまりの処理や、その理由を説明する記述問題において正答率が低く、無回答が18.3%であった。	正答率が目標値と同程度であった。算数への関心・意欲が高く、主体的に取り組める児童が多い一方で、図形やデータの活用において課題が見られた。

## ② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
正答率が目標値を上回っている。データの活用に関する問題については他の領域と比較して低い傾向がある。表やグラフから情報を読み取る技能の向上が必要である。	目標値を上回ってはいるが、変わり方調べや割合の正答率が低い傾向にある。数の関係を捉えたり、正しく立式をしてその理由を説明したりする問題において課題が見られた。	目標値を上回る結果であったが、意欲的に取り組む児童と苦手意識がある児童とで差がある。高学年になり学習の難易度も上がっていることも理由として考えられる。

## 3 授業改善のポイント（観点別）

### （1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○たし算やひき算では、具体物や半具体物を使ったり、簡単な図を描いて考えたりする活動を取り入れ、実感できるようにする。 ○単元の学習が終了しても、プリントやドリルパークなどを通して継続的に計算に取り組ませるようにする。	○自分がどのように問題の式や答えを考えたのかを、言葉で発表する活動を取り入れるようにする。 ○友達の考えを紹介したり、既習事項を活用させたりする活動を取り入れ、考えたり表現したりするようにする。	○植物の観察時に長さや高さを測るなど、他教科等や実生活と関連させるようにする。 ○時間の単位を日常生活で使っていくことの良さに気付かせ、目盛りを正しく読むことの大切さを実感できるようにする。

### （2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○筆算では、繰り上がりや繰り下がりを書き、検算を行うことで、正確に解けるようにする。 ○分数の計算では、テープ図を基に、分母と分子の意味を正しく捉えられるようにする。	○あまりのあるわり算では、わられる数に近くて、それよりも少ない九九の答えを予想できるようにする。 ○文章問題におけるあまりの処理では、場面を十分に想像させて意味を考え、答えに1を足すか、そのままにするかを考えられるようにする。	○作図では、動画教材を活用して手順の理解を深めたり、折り紙を使って図形の性質を楽しく捉えたりするようにする。 ○既習内容を算数の学習だけでなく、日常の生活や他教科等で活用できる場面を増やすようにする。 ○ドリルパーク等を活用し、個に応じた図形やデータの活用に関する学習に取り組む機会を設定する。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○分数の計算では、確実に計算や約分ができるようドリルパーク等を使い習熟を図る。</p> <p>○割合の単元では、答えの数値について予想をしたり、確実に計算ができたのかを確かめたりする習慣付けを行う。</p> <p>○データの活用をするための技能を身に付けるために、表やグラフに触れる機会においては、教科横断的に学習過程の中で触れていく。</p>	<p>○割合の単元では立式を行うために数直線を描いての大小関係や割合を確認する作業を定着させる。</p> <p>○図形の学習では面積の計算の仕方だけでなく、なぜそうなるのかの理由を積極的に表現する機会を設定する。</p>	<p>○高学年でも日常の生活と結び付けて、学習したことが社会で生きていることを実感させる。</p> <p>○協働的な学習を通じて新たな見方・考え方を得る場を大切にする。</p>